NGS 基本フォーマットとツール 復習と補足

NGS Basic Formats and Tools reviewing the last lecture + supplement

NIBB

2021's Genome Informatics Training Course

Hiroyo NISHIDE (hiroyo@nibb.ac.jp, @piroyon)

Remote login & file transfer

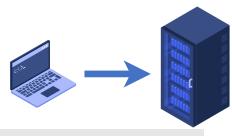
Remote login to bias.nibb-gitc.link

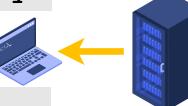
- log in
- \$ ssh courseXX@bias.nibb-gitc.link
- log out
- \$ exit

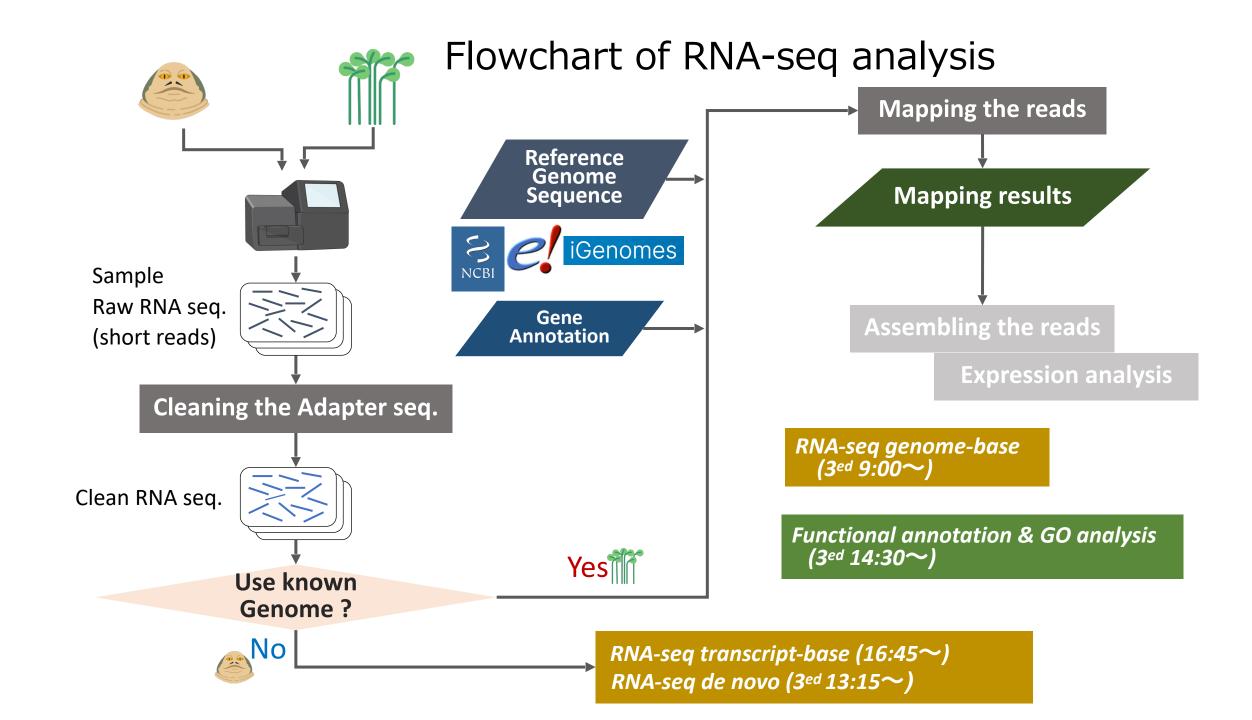
File transfer (optional)

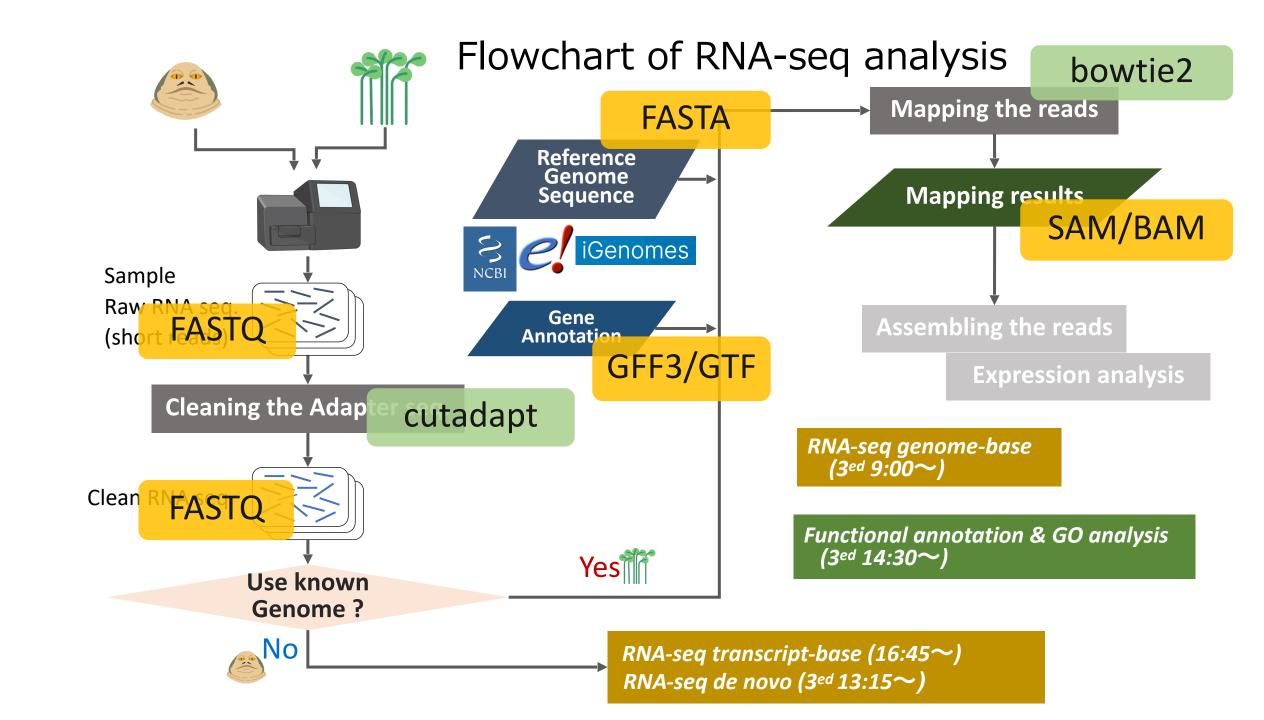
- Your machine to bias.nibb-gitc.link (~/directory)
- \$ scp file courseXX@bias.nibb-gitc.link:~/directory
- bias.nibb-gitc.link (~/directory/file) to your machine (.)
- \$ scp courseXX@bias.nibb-gitc.link:directory/file

「courseXX」 is your account

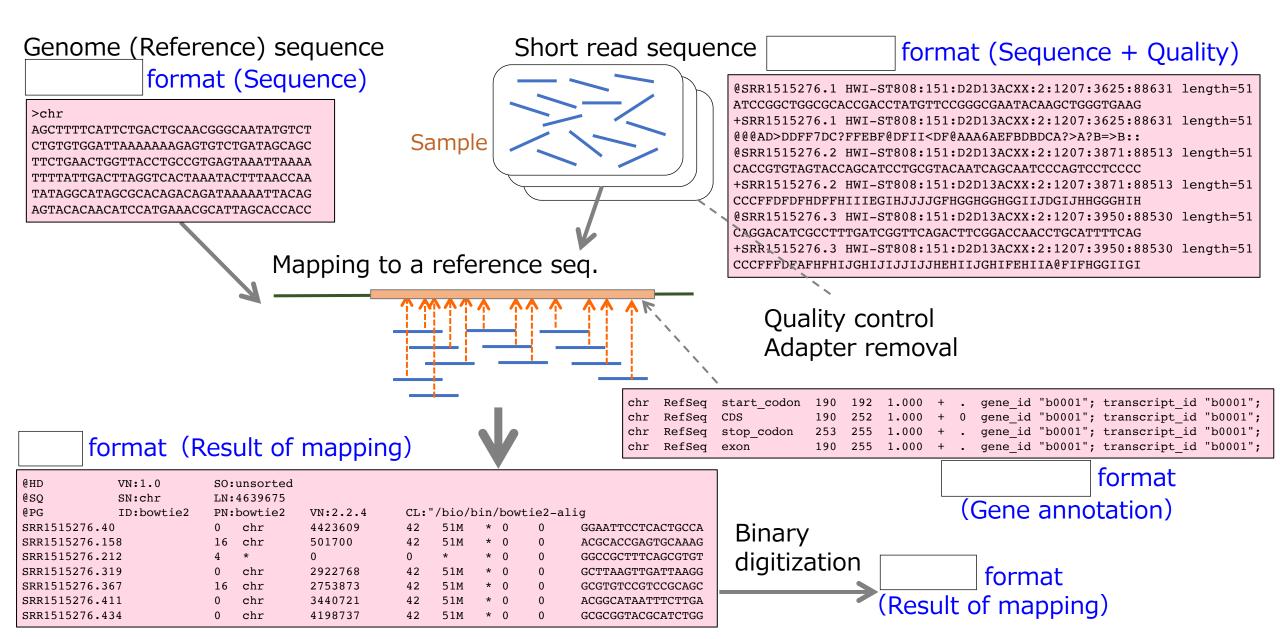








Short Read Mapping & Data Format



Short Read Mapping & Data Format



>chr
AGCTTTTCATTCTGACTGCAACGGGCAATATGTCT
CTGTGTGGATTAAAAAAAAGAGTGTCTGATAGCAGC
TTCTGAACTGGTTACCTGCCGTGAGTAAATTAAAA
TTTTATTGACTTAGGTCACTAAATACTTTAACCAA
TATAGGCATAGCGCACAGACAGATAAAAATTACAG

AGTACACAACATCCATGAAACGCATTAGCACCACC

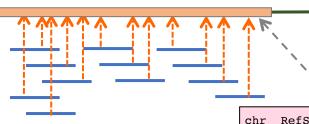
Short read sequence

FASTQ format (Sequence + Quality)

@SRR1515276.1 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3625:88631 length=51 ATCCGGCTGGCGCACCGACCTATGTTCCGGGCGAATACAAGCTGGGTGAAG +SRR1515276.1 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3625:88631 length=51 @@AD>DDFF7DC?FFEBF@DFII<DF@AAA6AEFBDBDCA?>A?B=>B:: @SRR1515276.2 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3871:88513 length=51 CACCGTGTAGTACCAGCCATCCTGCGTACAATCAGCAATCCCAGTCCTCCCC +SRR1515276.2 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3871:88513 length=51 CCCFFDFDFHDFFHIIIEGIHJJJJGFHGGHGGGIIJDGIJHHGGGHIH @SRR1515276.3 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3950:88530 length=51 CAGGACATCGCCTTTGATCGGTTCAGACTTCGGACCAACCTGCATTTTCAG +SRR1515276.3 HWI-ST808:151:D2D13ACXX:2:1207:3950:88530 length=51 CCCFFFDFAFHFHIJGHIJIJJIJJHEHIIJGHIFEHIIA@FIFHGGIIGI

Mapping to a reference seq.

Sample



Quality control Adapter removal

chr RefSeq start_codon 190 192 1.000 + . gene_id "b0001"; transcript_id "b0001";
chr RefSeq CDS 190 252 1.000 + 0 gene_id "b0001"; transcript_id "b0001";
chr RefSeq stop_codon 253 255 1.000 + . gene_id "b0001"; transcript_id "b0001";
chr RefSeq exon 190 255 1.000 + . gene_id "b0001"; transcript_id "b0001";

SAM format (Result of mapping)

| @HD | VN:1.0 | so: | unsorted | | | | | | | |
|--------------|------------|-----|----------|----------|------|---------|------|-------|-------|-------------------|
| @SQ | SN:chr | LN: | 4639675 | | | | | | | |
| @PG | ID:bowtie2 | PN: | bowtie2 | VN:2.2.4 | CL:' | '/bio/k | oin, | bowt/ | ie2-a | lig |
| SRR1515276.4 | 0 | 0 | chr | 4423609 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | GGAATTCCTCACTGCCA |
| SRR1515276.1 | 58 | 16 | chr | 501700 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | ACGCACCGAGTGCAAAG |
| SRR1515276.2 | 12 | 4 | * | 0 | 0 | * | * | 0 | 0 | GGCCGCTTTCAGCGTGT |
| SRR1515276.3 | 19 | 0 | chr | 2922768 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | GCTTAAGTTGATTAAGG |
| SRR1515276.3 | 67 | 16 | chr | 2753873 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | GCGTGTCCGTCCGCAGC |
| SRR1515276.4 | 11 | 0 | chr | 3440721 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | ACGGCATAATTTCTTGA |
| SRR1515276.4 | 34 | 0 | chr | 4198737 | 42 | 51M | * | 0 | 0 | GCGCGGTACGCATCTGG |
| | | | | | | | | | | |

GTF (GFF3) format

(Gene annotation)

Binary digitization

BAM format (Result of mapping)

復習: cutadaptによる アダプター配列の除去

実習用ディレクトリ ~/gitc/data/HN

入力

```
•ショートリード配列(FASTQ フォーマット, paired-end)

etec_1.fq

etec_2.fq
```

•アダプター配列 (それぞれを3'端から除去)

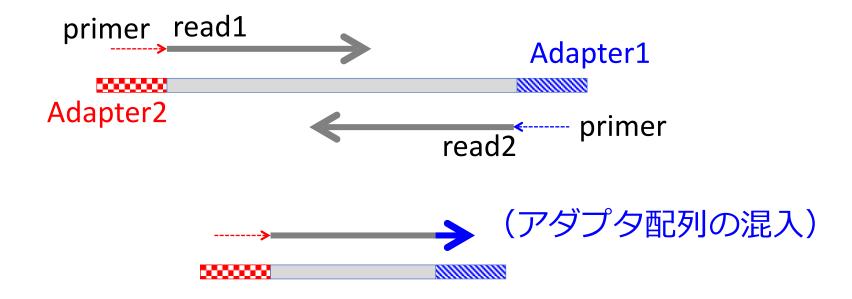
Adapter1: AGATCGGAAGAGCGGTT

Adapter2: AGATCGGAAGAGCGTCG

◆アダプター配列除去の実行

除去後のデータ(FASTQフォーマット)は etec_1.cut.fq、etec_2.cut.fqとする。

Illuminaにおけるアダプター配列



Adapter1: AGATCGGAAGAGCACACGTCTGAACTCCAGTCAC

Adapter2: <u>AGATCGGAAGAGCGTCGTGTAGGGAAAGAGTGTA</u>

cutadapt -a (-A) オプションでは、指定した配列とマッチした箇所以降の3'側を切り捨てるので、アダプタ配列は全長を指定しなくてもよい。

cutadapt その他のオプション

- -q [5' <u>cutoff</u>,] 3' <u>cutoff</u> (例: -q 20)
 - ・クオリティ値が指定したカットオフより低い塩基を3'端から除く(カンマ区切りでカットオフを2つ指定した場合は5'端からも除く)
- -m <u>min length</u> (例:-m 30)
 - アダプター除去後の配列長が指定した長さ以下になったら配列全体を捨てる。
 - ペアエンドの場合、ペアのどちらかが捨てられる場合は両方を捨てる。
 - →2つのファイルで対応する配列の出現順が揃うようにする。
- -O <u>overlap length</u> (例: -O 5)
 - アダプターとリードとの間で、マッチしたと見なす最低のオーバーラップ長を指定。デフォルトは3。

復習:bowtie2 用インデックスの作成

実習用ディレクトリ ~/gitc/data/HN

bowtie2でマッピングをするには、リファレンスゲノム配列にインデックスが必要

入力

ゲノム配列 (FASTAフォーマット)

eco_o139.fa 腸管毒素原性大腸菌(ETEC) O139:H28のゲノム配列

- ◆bowtie2用インデックスの作成(インデックス名は etec とする)
- \$ bowtie2-build eco_o139.fa etec

復習:bowtie2の実行(paired-end)

実習用ディレクトリ ~/gitc/data/HN

入力

```
    ショートリード配列(FASTQフォーマット, paired-end, アダプター除去済)
    etec_1.cut.fq
    etec_2.cut.fq
```

リファレンスゲノム配列のインデックス名 (先ほど作ったもの)

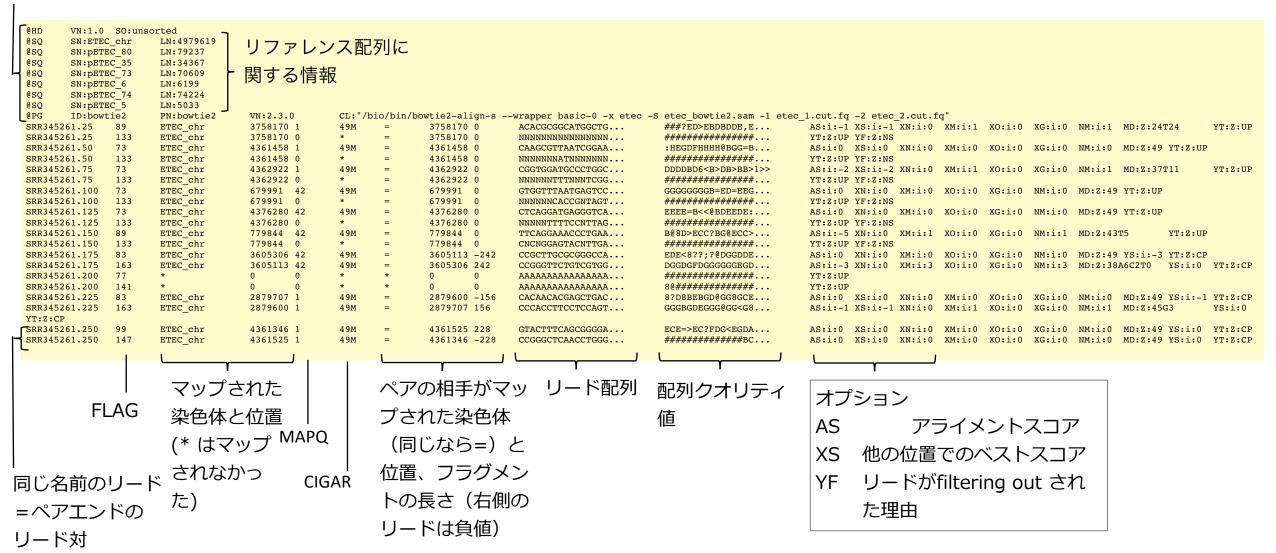
```
etec
```

◆bowtie2によるマッピングの実行(結果ファイル:etec_bowtie2.sam)

```
$ bowtie2 -x etec -1 etec_1.cut.fq -2 etec_2.cut.fq
-S etec_bowtie2.sam
```

マッピング結果ファイル (SAMフォーマット)

ヘッダ(@で始まる)



復習:SAMからBAMへの変換

実習用ディレクトリ ~/gitc/data/HN

人が読めるテキストデータのSAMから、コンピュータが扱い易いBAM(圧縮したバイナリデータ)へ変換する

入力

- SAMフォーマットファイル (さきほどbowtie2によって作成されたもの) etec bowtie2.sam
- ◆SAMからBAMへ変換する (結果ファイル: etec bowtie2.bam)
- \$ samtools view -b etec_bowtie2.sam -o etec_bowtie2.bam
- ◆作成したBAMファイルをヘッダ付きでSAMに変換してlessで表示する
- \$ samtools view —h etec_bowtie2.bam | less

復習:BAMのインデックス作成と検索

実習用ディレクトリ ~/gitc/data/HN

BAMフォーマットファイルを扱いやすくするためにソートし、インデックスを作成する

入力

- •BAMフォーマットファイル (さきほどSAMからの変換によって作成されたもの) etec bowtie2.bam
- ◆リファレンス配列上の位置の順にソートする

(結果ファイル:etec bowtie2 sorted.bam)

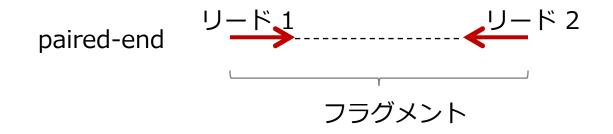
- \$ samtools sort etec_bowtie2.bam —o etec_bowtie2_sorted.bam
- ◆ソートされたBAMファイルに対してインデックスを作成する(.baiファイルができる)
- \$ samtools index etec_bowtie2_sorted.bam
- ◆インデックスを使って、リファレンスの染色体配列(染色体名:ETEC_chr)の10000-12000 の範囲にマッピングされた結果のみを表示する
- \$ samtools view etec_bowtie2_sorted.bam ETEC_chr:10000-12000

SAM/BAM フォーマット補足

- Bowtie2のデフォルトオプションでマッピングした結果のSAM/BAMファイルは、 元のFASTQファイルに含まれている各リードの配列とクオリティデータをすべて含 んでいる。以下のコマンドでSAM/BAMファイルからFASTQファイルを作成でき る。
- \$ samtools fastq etec_bowtie2.bam -1 r1.fq -2 r2.fq
- ・個々のリード配列を記録する代わりに、リファレンス配列を参照して、各リードの リファレンス上の位置とアライメント情報のみを記録することによって、さらに圧 縮率を高めたバイナリ形式としてCRAM形式がある。
- \$ samtools view -C etec_bowtie2.sam -T eco_o139.fa
 -o etec_bowtie2.cram

Bowtie2のオプション1

ペアエンドリード対の検索



- -I min length フラグメント長の最小値 (default: 0)
- -X max length フラグメント長の最大値 (default: 500)
- --fr / --rf / --ff リード1とリード2の相対的な向き (default: fr)



条件を満たさない(discordant)リード対もデフォルトでは出力される。その際、2カラム目(FLAG)の2ビット目(ペアが正しくアラインされたか?)に0がセットされる。

マッピング結果のフラグ (FLAG)

- True/Falseの2状態を1/0で表した変数。複数のフラグをまとめて、2進数の数値で表現される。
- フラグ値は10進数で表示されるが、2進数に変換することで解釈される。

FLAG値

 10進数
 2進数
 解釈

 83
 01010011
 ペアリードである

 各リードが適切にアラインされている
 逆鎖にマップされている

 1番目のリードである

unix コマンドによる 10進数→2進数の変換

```
$ echo 'obase=2;83' | bc
1010011
```

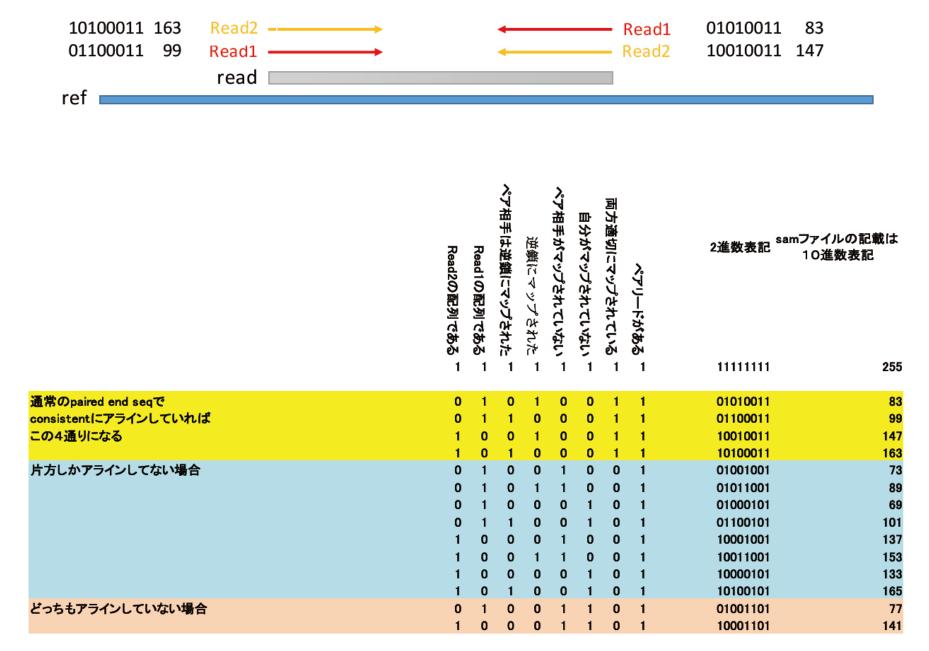
samtools を使ったフラグ値についての確認

```
$ samtools flags 83
0x53 83 PAIRED, PROPER_PAIR, REVERSE, READ1
```

各フラグの説明を表示

\$ samtools flags

Paired end readでのFLAG値



Samtoolsを用いたフラグによるフィルタリング

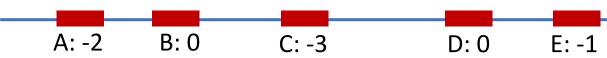
- samtools view -f <u>フラグ値</u> BAMファイル
 - 指定した<u>フラグ値</u>中で1であるフラグが、<u>BAMファイル</u>中のフラグ値でもすべて1になっている行のみを抜き出す。
 - 例) ペアリードでかつ両方が適切にアラインされている行のみを抜き出す
- \$ samtools view —f 3 etec_bowtie2_sorted.bam
 3は2進数で11だから、1番目と2番目のフラグが1である行を抜き出す(それ以外のフラグは無視)
- samtools view —F <u>フラグ値</u> BAMファイル
 - 指定した<u>フラグ値</u>中で1であるフラグが、<u>BAMファイル</u>中のフラグ値ではすべて0になっている行のみを抜き出す。
 - 例) ペアリードの両方が適切にアラインされていない行のみを抜き出す
- \$ samtools view —F 2 etec_bowtie2_sorted.bam 2番目のフラグが0である行を抜き出す。

Bowtie2のオプション2

アライメント出力のモード

• 一般に、1つのリードは複数の箇所にマップされる。

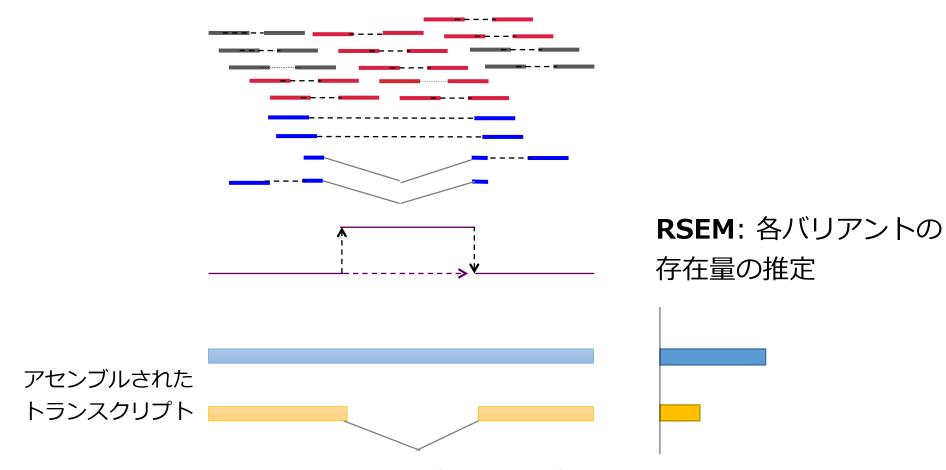
Bowtie2におけるスコア = ミスマッチに対するペナルティ



- default (best one mode)
 - 条件を満たすアライメントを検索し、最高スコアのものを1つ出力 (ただし、検索は完全でないので、最高スコアを取りこぼす可能性はある) 上記の例では、BまたはD (どちらかがランダムに選ばれる)
- -a 条件を満たすアライメントをすべて出力 上記の例では、A,B,C,D,E
- -k <u>num_of alignment</u>
 条件を満たすアライメントを、見つかった順に指定した数だけ出力
 上記の例で、-k 2 のとき、左から順に見つかるとすると、AとBが出力される
 (実際には位置の順に見つかるわけではない)
- -a や -k を指定したとき、最高スコアでないアライメントには9番目のフラグ (secondary alignment)に1がセットされる

(参考) De novo Assembly によるRNA-Seq解析

デノボ・アセンブルによる転写配列の構築



一つのリードを複数のトランスクリプトにマップした上で存在量を推定する → -a オプションを指定(または-kで大きい値を指定)

マッピングクオリティ(MAPQ)

・マッピングクオリティ(MAPQ)値は以下の式で計算される。

$$\mathsf{MAPQ} = -10\log_{10}(P_e)$$

- ただし、 P_e はリードが間違った位置にマップされている確率の推定値。
- MAPQは、リードがその位置にどの程度ユニークにマップされたかを示す指標であり、その位置でのアライメントスコアが、他のすべての位置におけるスコアよりずっと大きいときに大きくなる。
- Bowtie2のデフォルトでは同じスコアのアライメントが複数の位置で得られた場合、ランダムに一つの位置を出力し、MAPQに低い値を設定する。
- MAPQが低いアライメントの位置は信用できないので、下流の解析の際には捨てた方が良い場合もある。

Samtoolsを用いたMAPQによるフィルタリング

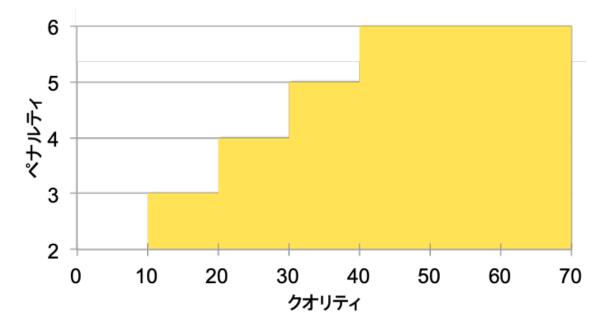
• samtools view —q <u>閾値</u> <u>BAMファイル</u> MAPQの値が<u>閾値</u>より小さい行を除く

例)MAPQが20以上の行のみを出力

\$ samtools view -q 20 etec bowtie2.bam

(参考) Bowtie2におけるアライメントスコア

- マッチは0で、ミスマッチにマイナスのペナルティ(最高スコアは0点)
- ミスマッチペナルティは、クオリティ値に応じて −2 から −6 の値をとる(下図)
- あいまい塩基(N)のペナルティは −1
- ギャップペナルティは、ギャップの長さ n に対して -(5 + 3n)
- スコアのカットオフは、長さLに対して -0.6(L+1)



Bowtie2のオプション3 アライメントのモード

--end-to-end リード配列全長に渡るアライメント (default)

• --local リード配列のうち、類似度の高い一部の領域のみを抜き出してアラインしたもの

Read: ACGGTTGCGTTAA-TCCGCCACG

Reference: TAACTTGCGTTAAATCCGCCTGG

CIGAR文字列

- リードとリファレンス配列とのアライメントの詳細を表す。
- ギャップなしでアラインされている場合 nM(nはリード配列の長さ)となる。
- ギャップが入っている場合、nD(欠失)または nI(挿入)(nは欠失/挿入長さ)が入る。

5M2D4M1I5M

 ローカルアライメントのとき、両端の除かれる部分は nSで、またTopHatなどのスプライ シングを考慮するアライメントにおいて、イントロンとしてスキップされるリファレンス 配列上の領域は nNで表される。

5S4M1I5M

インデックスを使った高速検索

ハッシュテーブル

ゲノム配列

リード配列

ACACGTTACGGT....

CGTTGCA

①インデックス作成

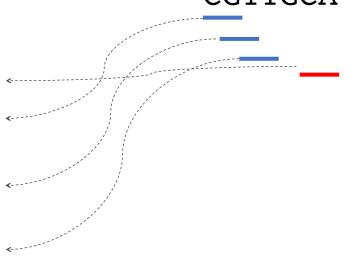
ハッシュテーブル

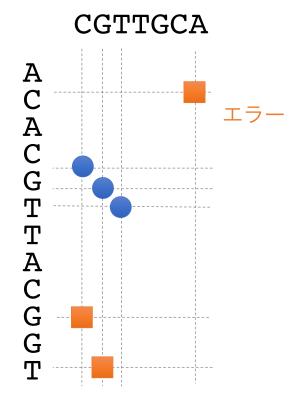
各2-merの出現位置を記録

| 2-mer | positions |
|-------|-----------|
| AC | 1,3,8 |
| CA | 2 |
| CG | 4,9 |
| GG | 10 |
| GT | 5,11 |
| TA | 7 |
| TT | 6 |

② インデックスを使った 初期検索(seed検索)

CGTTGCA





③ 見つかったseedを延長して アライメント ACACGTTACGGT.....
CGTTGCA

インデックスを使った高速検索

接尾辞配列(suffix array)

ACACGTTACGGT

接尾辞

ACACGTTACGGT CACGTTACGGT **ACGTTACGGT** CGTTACGGT GTTACGGT TTACGGT TACGGT ACGGT CGGT GGT GT12 T

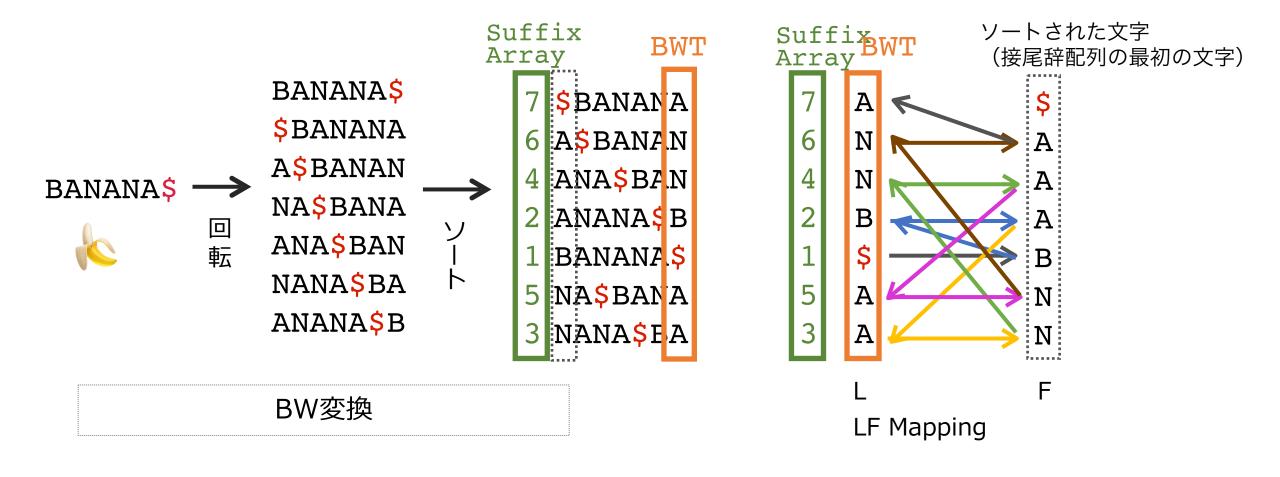
| | 1 | ACACGTTACGGT |
|----------|---------------|---------------------|
| | 8 | ACGGT |
| | 3 | ACGTTACGGT |
| | 2 | CACGTTACGGT |
| | 9 | CGGT |
| → | 4 | CGTTACGGT |
| 辞書順で | 1 0 | G G TT |
| 叶自心のし | 10 | GGT |
| ソート | 11 | GGT GT |
| | - • | |
| | 11 | GT |
| | 11 5 | GT GTTACGGT |
| | 11 5 12 | GT GTTACGGT T |



接尾辞配列

Burrows-Wheeler 変換 (BWT)

- BANANA\$ の BWT は、ANNB\$AA
- BWTから元の BANANA\$ に戻すことができる(逆変換)



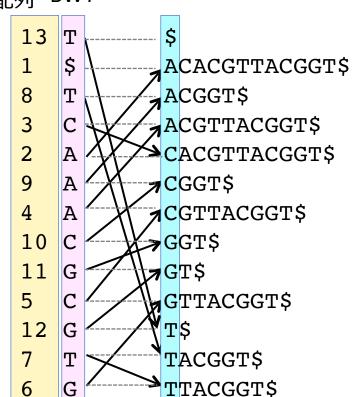
Burrows-Wheeler 変換 (BWT)に基づくインデックス(FM-Index)

ACACGTTACGGT\$



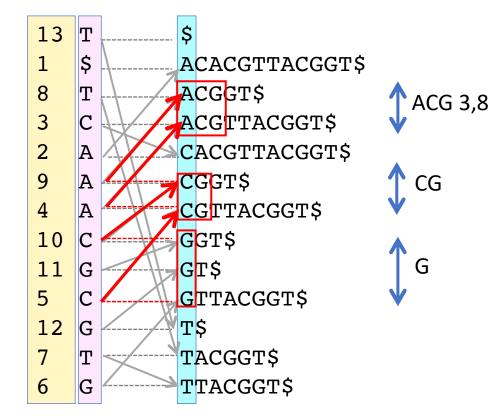
T\$TCAAACGCGTG

接尾辞 配列 BWT



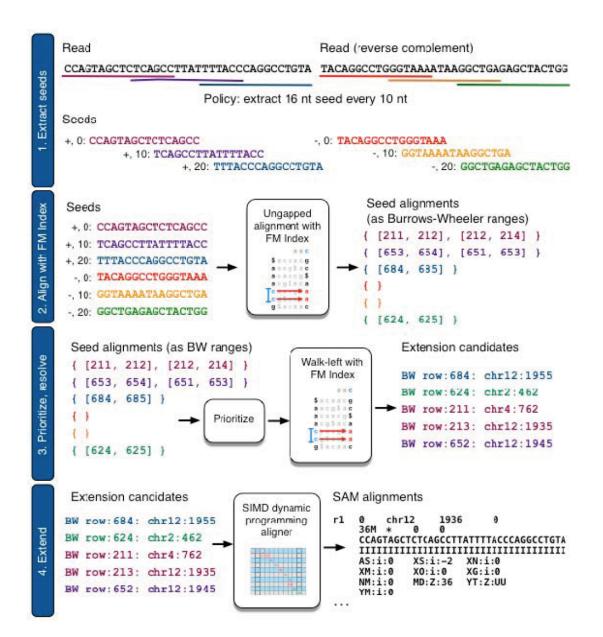
矢印(LF mapping)を辿って元の配列を 再構築できる(逆変換)。

文字列ACGの検索



矢印を辿って接尾辞配列上での効率の 良い文字列検索の実現

Bowtie2 アルゴリズムの詳細



1. Seed 配列の抽出

各リード配列およびその相補配列から i 塩基ごとに L 塩基の配列を抽出してseed配列とする(図ではi=10, L=16)。

2. FM index を用いた検索

各seed配列がゲノム上に出現する位置がBW rangeとして得られる。最大1つのミスマッチを考慮した検索が可能。

3. ヒットの優先付け、位置の取得

BW rangeの幅が小さいヒットに高い優先度をつけて、ランダムに候補をピックアップし、ゲノム上の位置を取得。

4. アライメントの計算

得られた位置の周辺で、ギャップ入りのアライメントスコアを計算。これを各候補位置について繰り返して、最高スコアを与えるゲノムトの位置を出力。

Bowtie2のオプション4

検索の精度と速度に関するオプション

```
    -N <u>int</u> seed 検索時にミスマッチを許す数 (0 or 1)
    -L <u>int</u> seed の長さ
    -i <u>func</u> seed をとる間隔(リード長を基に決める式を指定)
    -D <u>int</u> 最高スコアが更新されないときアライメント計算を打ち切るまでの回数
    -R int リードが高反復のseedをもつときにre-seedを行う最大回数
```

上記のオプションを同時に設定する preset optionがある。 高速(低感度)→ 高感度(低速)の順に4段階のオプションが用意されている。

• end-to-endモードの場合 (default: sensitive)

```
--very-fast / --fast / --sensitive / --very-sensitive
```

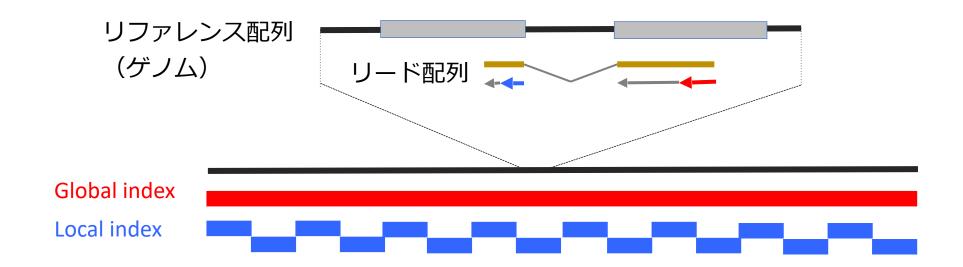
• localモードの場合 (default: sensitive-local)

```
-very-fast-local / --fast-local / --sensitive-local / --very-sensitive-local
```

(参考)HISAT2

スプライシングを考慮した高速マッピングツール

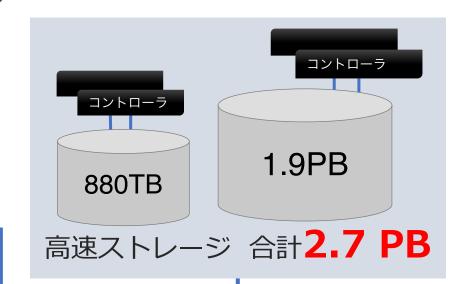
- スプライシングを考慮して、一つのリードをゲノム上で離れた 箇所にまたがってマッピングする。
- global とlocalの2つのインデックスを2段階で用いることにより、高速かつ正確にスプライスされたアライメントを実現。



生物情報解析システム (bias5)

共有メモリ型計算サーバ **4TB Mem** 80 cores Idas-smp.nibb.ac.jp

> 大容量 ストレージ 600TB



FDR インフィニバンド スイッチ 分散処理計算機クラスタ **800cores** 4.8GB Mem/core bias5-node[01-20].nibb.ac.jp

> 共有メモリ型計算サーバ **3TB Mem** 72 cores bias5-smp.nibb.ac.jp

ログインノード

768GB Mem bias5.nibb.ac.jp

データベースサーバ 512GB Mem

共有メモリ型計算サーバ **527GB Mem** 64 cores diaf-smp1.nibb.ac.jp 共有メモリ型計算サーバ **527GB Mem** 64 cores diaf-smp2.nibb.ac.jp

